

# 朝鮮半島の非核化の可能性を背景に 日本の再処理政策について考える

2018年11月26日

日韓の核燃料サイクル政策  
—その影響と代替策—

共催 原子力資料情報室（日本）  
Institute for Peace and Cooperation（韓国）  
協力 ストップ・ザ・もんじゅ

田窪雅文

核情報 <http://kakujo.net/>  
[takubomasa@ybb.ne.jp](mailto:takubomasa@ybb.ne.jp)

# 世界の核兵器 2018年(11月更新) FAS

| 国名     | 戦略核  | 戦術核 | 予備/非配備  | 保有核     | 総数<br>*解体待ち含む |
|--------|------|-----|---------|---------|---------------|
| ロシア    | 1600 | 0   | 2750    | 4350    | 6850          |
| 米国     | 1600 | 150 | 2050    | 3800    | 6450          |
| フランス   | 280- |     | 20      | 300     | 300           |
| 中国     | 0    | ?   | 280     | 280     | 280           |
| 英国     | 120- |     | 95      | 215     | 215           |
| イスラエル  | 0-   |     | 80      | 80      | 80            |
| パキスタン  | 0-   |     | 140-150 | 140-150 | 140-150       |
| インド    | 0-   |     | 130-140 | 130-140 | 130-140       |
| 北朝鮮    | 0-   |     | ?       | 10-20   | 10-20         |
| 合計(概数) | 3600 | 150 | 5565    | 9335    | 14485         |

出典：<https://fas.org/issues/nuclear-weapons/status-world-nuclear-forces/>

世界の核分裂性物質保有量（2017年1月現在）（単位：トン）

| 国          | 高濃縮ウラン | 軍事用プルトニウム   | 民生用プルトニウム            |
|------------|--------|-------------|----------------------|
| ロシア        | 679    | 128         | 57.2                 |
| 米国         | 574.5  | 80.8        | 7                    |
| 英国         | 21.2   | 3.2         | 110.3                |
| フランス       | 30.6   | 6           | 65.4                 |
| <b>中国</b>  | 14     | <b>2.9</b>  | 0.04                 |
| パキスタン      | 3.4    | 0.28        | -                    |
| インド        | 4      | 6.58        | 0.4                  |
| イスラエル      | 0.3    | 0.9         | -                    |
| <b>北朝鮮</b> | 0      | <b>0.04</b> | -                    |
| <b>その他</b> | 15     | -           | <b>49.3(日本:46.9)</b> |
| 合計         | 1340   | 230         | 290                  |

出典： <http://fissilematerials.org/>

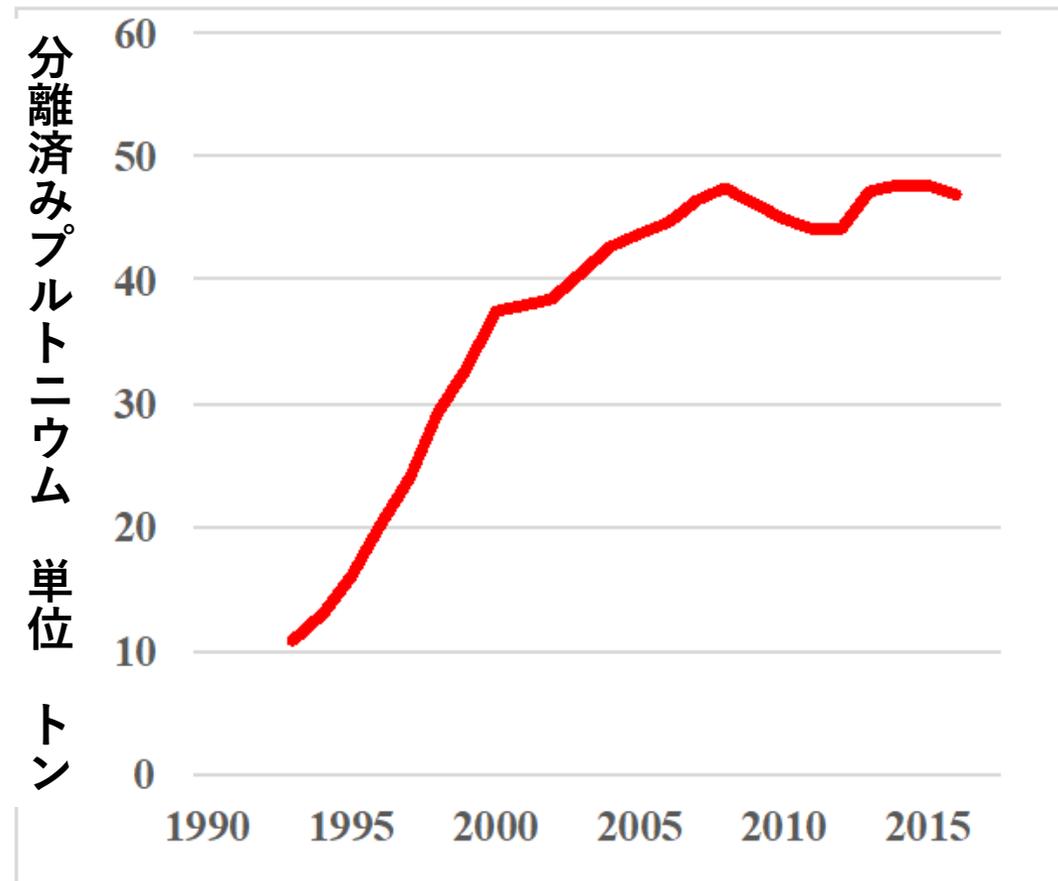
# 日本プルトニウム保有量 約48トン(2017年末現在) 核兵器6000発分 (IAEAの計算方法)

## 分離プルトニウムの管理状況

|    |            | 平成28年末時点 | 平成29年末時点 |         |
|----|------------|----------|----------|---------|
| 総量 | 国内で保管中     | 約46.9トン  | 約47.3トン  |         |
|    | 海外で<br>保管中 | (計)      | 約9.8トン   | 約10.5トン |
|    |            | 英国       | 約37.1トン  | 約36.7トン |
|    |            | 仏国       | 約20.8トン  | 約21.2トン |
|    |            | 約16.2トン  | 約15.5トン  |         |

出典：<http://www.aec.go.jp/jicst/NC/iinkai/teirei/siryu2018/siryu27/2.pdf>

# それでも、六ヶ所再処理工場の運転開始計画 年間8トンの分離能力



六ヶ所再処理工場 2021年運転開始予定

# さらに、新型転換炉ふげん使用済み燃料 仏で再処理の計画

## 1.3トンのプルトニウム分離

- ▶ 仏オラノ社11月15日発表  
731体(核物質重量111トン)受け入れ準備契約
- ▶ 日本原子力研究開発機構(JAEA)の10月26日福井県で発表  
4基のキャスク(輸送容器)製造  
敦賀にある使用済み燃料集合体466体の搬出計画  
2023年頃搬出開始、26年夏ごろ終了

実際は、6基のキャスク製造

茨城県東海村にあるふげんの265体を含め合計731体搬出  
含有プルトニウム1.3トン

\* 以上、11月14日宮川伸議員事務所での面談で文科省が認める

# オバマ大統領

第2回核セキュリティ・サミットの際

2012年3月26日韓国外国語大学で講演

<http://builder.hufs.ac.kr/user/boardList.action?command=view&boardId=1010603&boardSeq=14109547>

分離済みプルトニウムのような我々がテロリストの手に渡らぬようにしようと試みているまさにその物質を大量に増やし続けることは、絶対にしてはならない

# カントリーマン国務次官補

(国際安全保障・不拡散担当)

## 再処理には経済性も合理性もない

使用済み燃料再処理計画は、経済性も合理性もなく、核拡散防止の観点から「すべての国がプルトニウム再処理の事業から撤退してくれれば、非常に嬉しい」。(米韓原子力協力協定の交渉過程で韓国が日本と同じ再処理の権利を与えよと主張し、また、中国が民生用再処理の導入を検討していることについて)「東アジアの主要国の間には競争があって、それは私の考えでは非合理的レベルにまで至っている。」「本質的な経済性という問題があり、米国とアジアのパートナー諸国が問題になっている経済面および核不拡散面の問題について共通の理解を持つことが重要だ——日本との原子力協力協定の更新について決定をする前に」

2016年3月17日 上院外交委員会公聴会

# 懸念を伝えられたことはない プルトニウム増産に邁進する日本

## ●2016年3月18日 菅義偉官房長官

日本の核燃料政策について米政府側から懸念を伝えられたことは? 「それは全くありません」

## ●2016年3月24日 岸田文雄外務大臣 衆議院本会議

御指摘の[カントリーマン国務次官補の]発言については、**一般論**として民生用再処理に関する米国政府の従来の見解を述べたものと認識をしております。我が国が再処理を含む核燃料サイクルを推進していくとの方針については、**米国政府の理解を得ていると考えており**、今後とも、米国との間で円滑かつ緊密な原子力協力の確保に努めていく考えです。

# 期待

- 今日の議論が、これまで見てきたような問題について掘り下げて考える機会なること

ありがとうございます。